

景況調査

第22回「県内企業景気動向調査」(概要)

① 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内景気の動向について把握するために実施した。

② 調査の方法

オンライン・アンケート (894社※)

※有効回答数469社 (回答率52.5%)

③ オンライン・アンケートの集計方法

すべての質問項目についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は次の通り。

「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合)
- (「悪い」と回答した企業の割合)

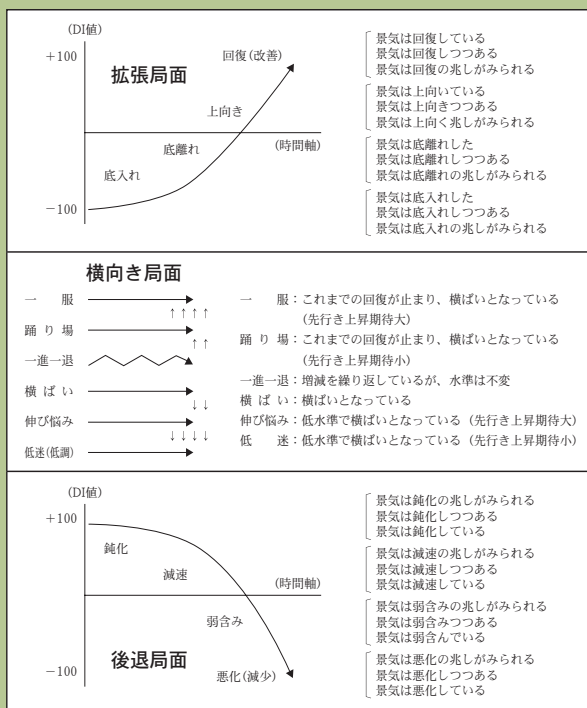
④ 調査期間

平成22年2月1日(月)～15日(月)

⑤ 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、蛙川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

⑥ 基調判断用語の凡例



▶ 景気の天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値(前年同期比)を5段階に分けて図解したもの。「天気図の凡例」をご参照のこと。

天気図の凡例

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI ≥ 30	30 > DI ≥ 10	10 > DI ≥ 10	▲10 > DI ≥ ▲30	▲30 > DI

(前回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

(今回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

県内企業の景気動向

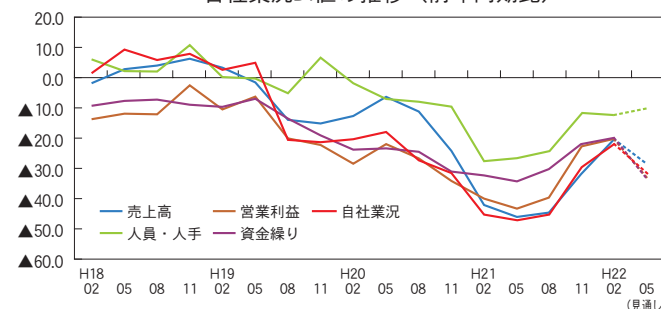
現状判断 持ち直しの兆しがみられるが、依然低い水準で推移している。

県内企業の業況は、自社の業況判断を示すDI値（「自社の業況」DI値）でみて、前年同期比、前期比ともに「悪い」超。「自社の業況」DI値（前年同期比）は▲21.9となっており、前回調査時点（平成21年11月）と比べて7.3ポイント改善し、持ち直しの兆しがみられるものの、依然として低い水準で推移している。

来期の見通し 先行き不安感が根強く残っている。

業況の先行き見通しは自社の業況値が▲31.5と再び悪化する数値となっており、先行き不安感が根強く残っている。

自社業況DI値の推移（前年同期比）



(前年同期比) (調査時点)	自社業況 (前期比)	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
H21.11	▲29.2 (▲14.2)	▲31.8	▲22.3	▲11.3	▲21.7
H22.02	▲21.9 (▲16.3)	▲20.3	▲20.3	▲12.3	▲20.1
変化幅	7.3 (▲2.1)	11.5	2	▲1.0	1.6
H22.05 (見通し)	▲31.5 (—)	▲28.7	▲33.0	▲10.2	▲33.7
変化幅	▲9.6 (—)	▲8.4	▲12.7	2.1	▲13.6

業種別の動向

現状判断

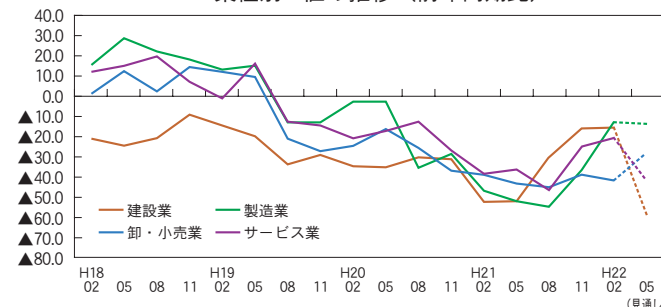
業種別では、卸・小売業を除いた業種において自社のDI値（前年同期比）が回復。とくにエコカー減税、家電エコポイント制度などの政策効果により受注が回復基調にある製造業では23.9ポイント（▲36.3→▲12.4）と大幅に改善がみられた。

建設業は公共工事の前倒し発注による政策効果が持続しており、前回調査（平成21年11月）とほぼ同水準となった。

来期見通し

業況の先行き見通しは、建設業が43.8ポイント下落（▲15.7→▲59.5）し、大幅に悪化。前回調査（平成21年11月）と同様に公共事業見直しなどによる受注への不安感は来年度も続く見込み。

業種別DI値の推移（前年同期比）



(前年同期比) (調査時点)	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
H21.11	▲16.1	▲36.3	▲38.9	▲24.6
H22.02	▲15.7	▲12.4	▲41.9	▲20.7
変化幅	0.4	23.9	▲3.0	3.9
H22.05 (見通し)	▲59.5	▲13.1	▲27.4	▲41.4
変化幅	▲43.8	▲0.7	14.5	▲20.7

地域別の動向

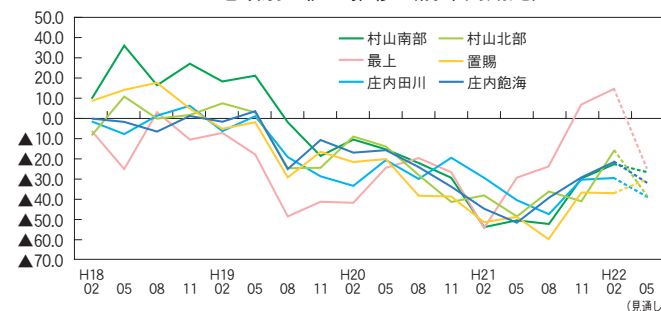
現状判断

地域別では置賜地域を除く5地域で前回調査時点と比べてDI値が上昇するなど、各地で景気は回復基調にある。特に村山北部地域ではDI値の回復幅は24.6ポイント（▲40.9→▲16.3）と最も大きい。また最上地域では2期連続でDI値がプラスで推移した。

来期見通し

業況の先行き見通しは、各地域とも依然不安感が継続している。特に建設業の割合が高い最上地域は大幅に悪化し、再びDI値がマイナスに転じる見通しとなっている。

地域別DI値の推移（前年同期比）



(前年同期比) (調査時点)	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H21.11	▲30.0	▲40.9	7	▲36.8	▲30.2	▲29.3
H22.02	▲22.9	▲16.3	14.6	▲37.0	▲29.3	▲21.8
変化幅	7.1	24.6	7.6	▲0.2	0.9	7.5
H22.05 (見通し)	▲26.7	▲38.2	▲24.4	▲30.2	▲39.0	▲32.2
変化幅	▲3.8	▲21.9	▲39.0	6.8	▲9.7	▲10.4